

# 図書館員 ステップアップ研修の提案

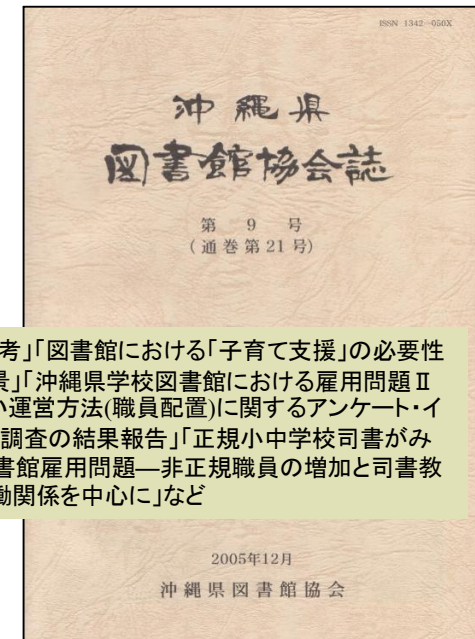
提案: 那覇市立中央図書館館長 宮良恵次  
発表: 沖縄県図書館協会調査研究部会メンバー

平成19年3月21日(水)  
シンポジウム「図書館の挑戦」(研究報告)

# 提案までの経緯

## 沖縄県図書館協会調査研究部会とは？

- 沖縄県図書館協会調査研究部会とは、沖縄県図書館協会の下部組織、2005年7月に再スタート。メンバーは大学教員を中心として、図書館員が加わる。
- 沖縄県の図書館界が抱える課題についてグループで実践的に研究、提言をまとめる。(雇用問題など)
- 2006年4月～、毎月1回、定例研究会を開催。現場の図書館員や学生と共同研究を実施、研究の成果を『沖縄県図書館協会誌』等で発表。
- 2006年11月、那覇市立中央図書館館長の宮良恵次氏から、調査研究部会に対して、研修・認定制度の提案がなされ、研修・認定制度案の作成に入る。



「OPAC再考」「図書館における「子育て支援」の必要性とその背景」「沖縄県学校図書館における雇用問題Ⅱ—望ましい運営方法(職員配置)に関するアンケート・インタビュー調査の結果報告」「正規小中学校司書がみた学校図書館雇用問題—非正規職員の増加と司書教諭との協働関係を中心に」など

# 本日の報告内容

- 図書館員研修・認定制度の提案  
(那覇市立中央図書館館長・宮良恵次)



- 図書館員研修・認定制度案の報告  
(沖縄県図書館協会調査研究部会代表・山口真也)



- 意見交換
  - ① 実施機関・研修プログラムについて
  - ② 実施日程・場所について
  - ③ 受講料について など



- アンケートのお願い



# なぜ研修・認定制度が 必要なのか？

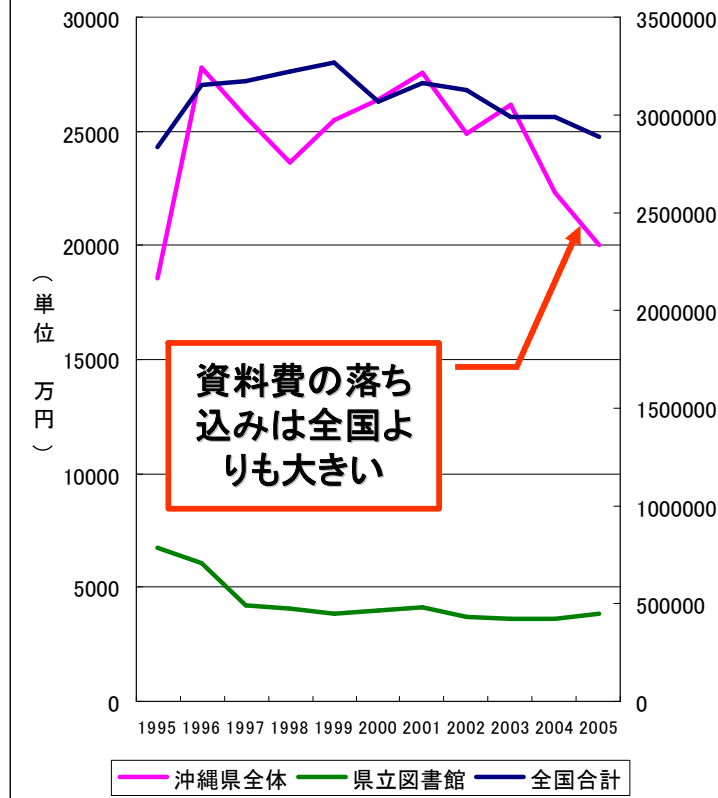
那覇市立中央図書館  
館長 宮良恵次

# 問題提起①

## 正規職員のスペシャリスト化

- 自治体内部では司書職は専門職とは認められていない。人事異動先の1つとしかみなされず、本人の意思、適性に反した人事異動も起こっている。
  - 司書職の専門性が認められなければ、コストダウンの流れが加速し、正規職員の定数削減も。
- **司書職＝専門職であることを主張できる制度が必要。**

図1 県内公共図書館の資料費の推移



(『日本の図書館』1995～2005、予算額より作成)

# 問題提起②

## 新任職員の効率的、効果的なスキル養成

- 自治体の財政難を背景に、多くの公共図書館が非正規職員の労働力に頼っている実情。
- 全国水準と較べて、正規職員の比率、正規職員の司書有資格者率が低い。
- (那覇市の)分館では正規の司書1名に対して、3年ごとに入れ替わる行政職員＋非正規職員数名という態勢。新任職員への指導が難しい状況。

図2-1 公共図書館の職員構成比(全国)

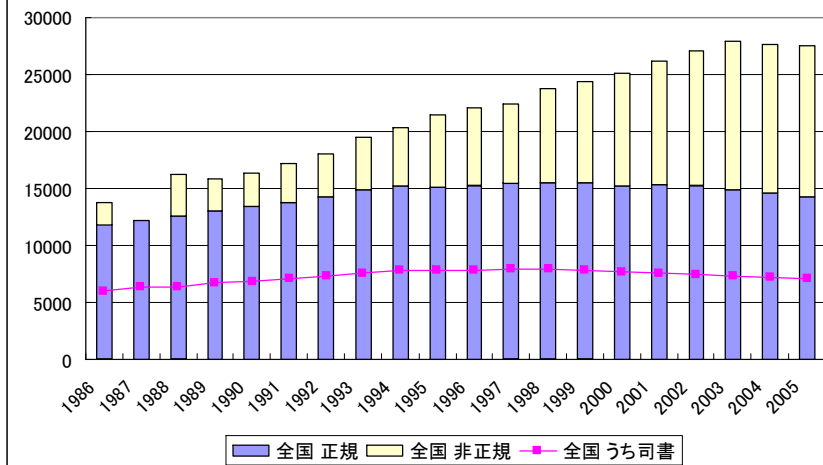
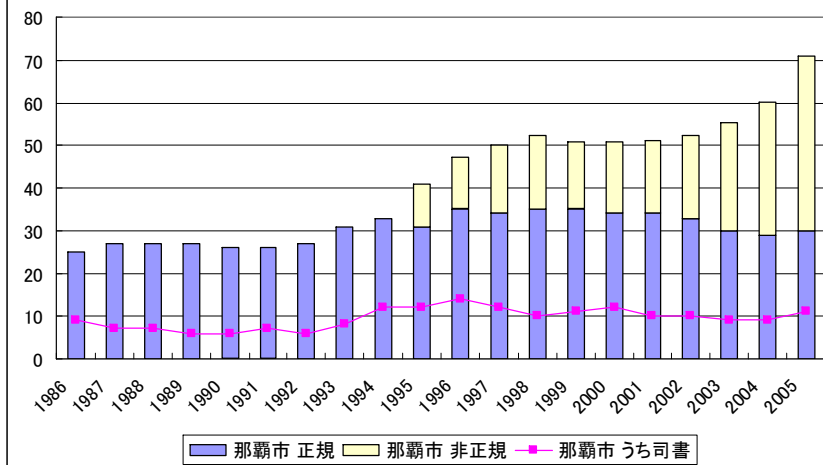


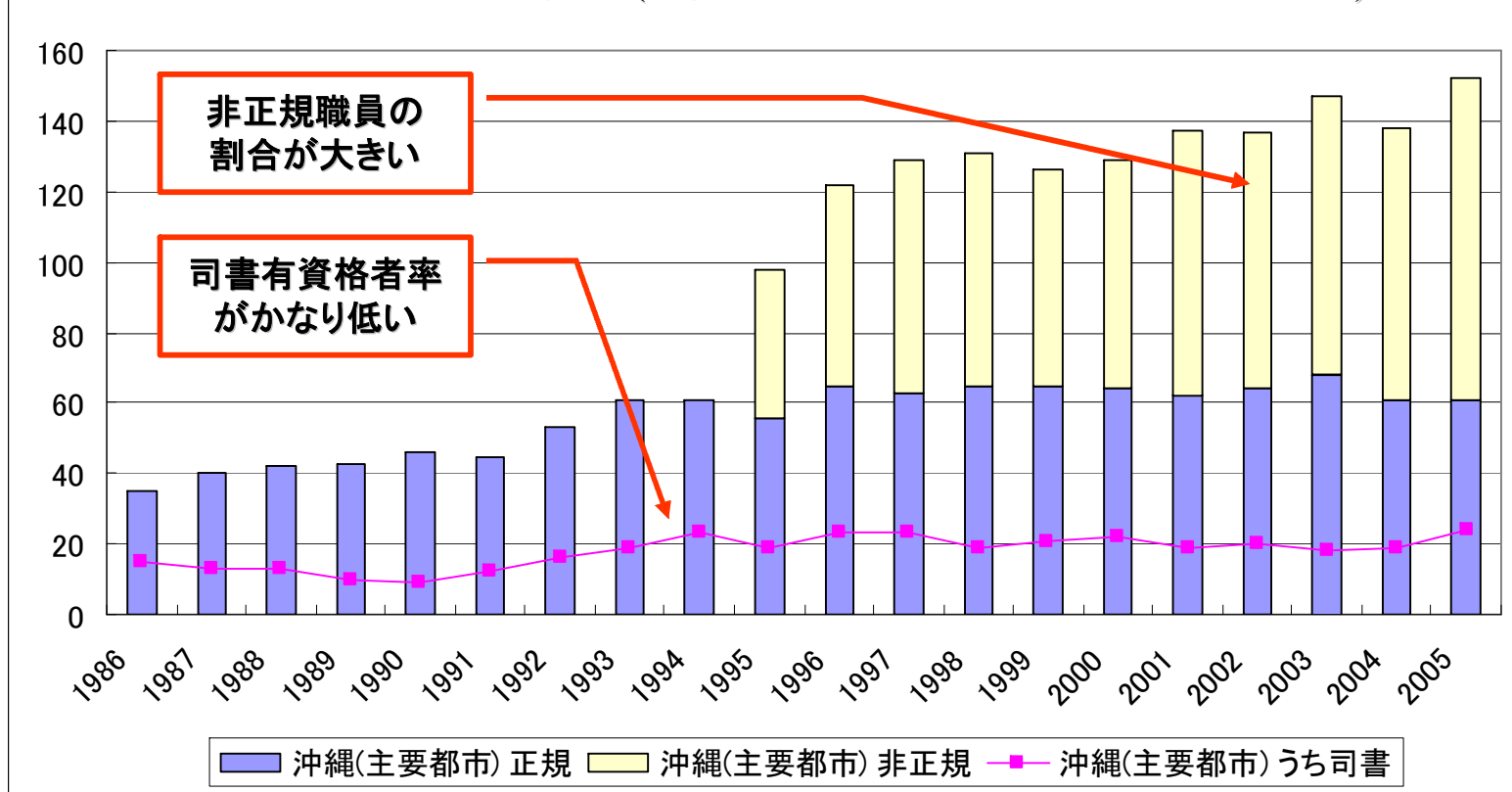
図2-2 公共図書館の職員構成比(那覇市)



# 問題提起②

## 全県的に正規職員、有資格者が少ない

図2-3 公共図書館の職員構成比(那覇市、浦添市、宜野湾市、沖縄市、豊見城市の合計)



→ 初任職員のスキルを効率的に高める制度が必要。

# 問題提起③

## 非正規職員の待遇改善

- 行政の内部で、司書職＝専門職であると認められていない。非正規職員の給与は経験、能力を問わず同じ。

職種	資格	時給	雇用時間	1ヶ月給与
公共図書館補助員	必要	970円	1週間4日、7.5時間勤務	116400円
学校図書館事務	必要	775円	1週間5日、8時間勤務	124000円
那覇市民会館管理要員	--	1250円	1週間5日、5時間勤務	125000円
臨床心理士	必要	1474円	1週間4日、7.5時間勤務	176800円
教育相談員	必要	1400円	1週間4日、7.5時間勤務	168000円
コンピュータ保守点検指導員	--	1686円	1週間5日、6時間勤務	202320円

- 能力が高まるほど実質的な時給は低くなる感覚に陥りやすく、図書館界からの人材流出の原因に。
  - 優秀な人材が定着せず、若年層が次々に入れ替わる職場になる。(自治体による有資格者の使い捨て、賃金格差の肯定)
- 個人の能力に応じた給与体系の導入、生活給の保障を要求するための能力認定制度が必要



# 問題提起④

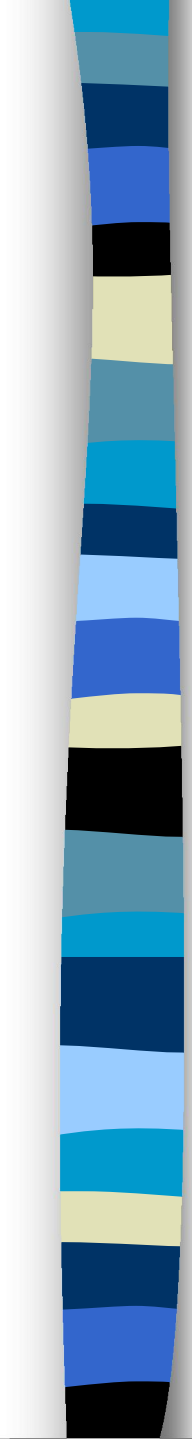
## 沖縄県の公共図書館に必要な制度とは？

- 雇用身分や経験年数(正規、非正規、新任、ベテラン)を問わず、やる気のある職員がその能力を存分に高めることができる制度。
- 個人の学習の成果が**正当に評価される仕組み**を作ることができる制度。具体的には、適性を考慮しない人事を防いだり、待遇改善を要求することができる制度。

① 図書館員の能力を高める研修制度

&

② 図書館員の能力を証明する認定制度

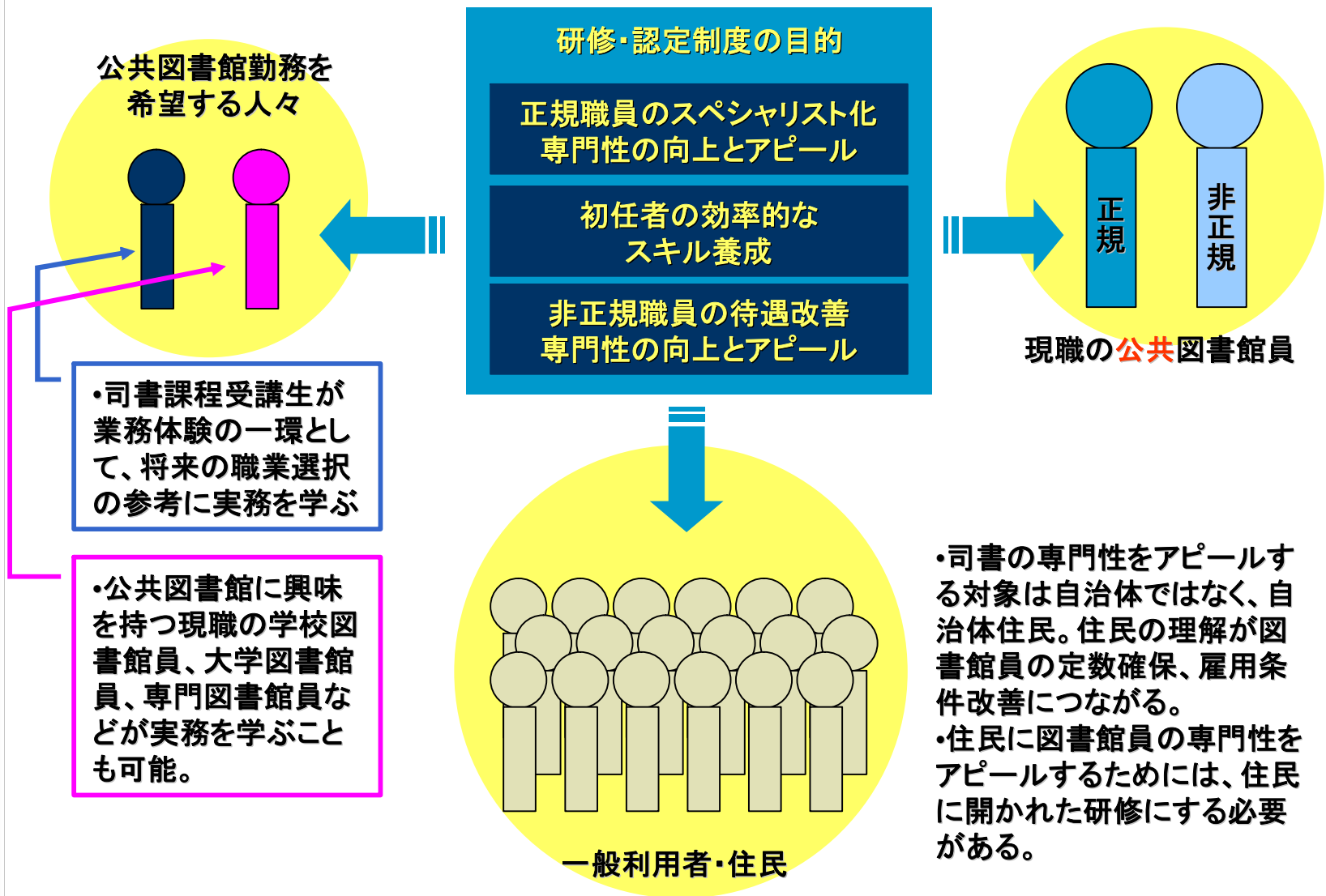


# どのような研修・ 認定制度が 望ましいのか？

沖縄県図書館協会  
調査研究部会メンバー  
代表 山口真也  
(沖縄国際大学司書課程担当)

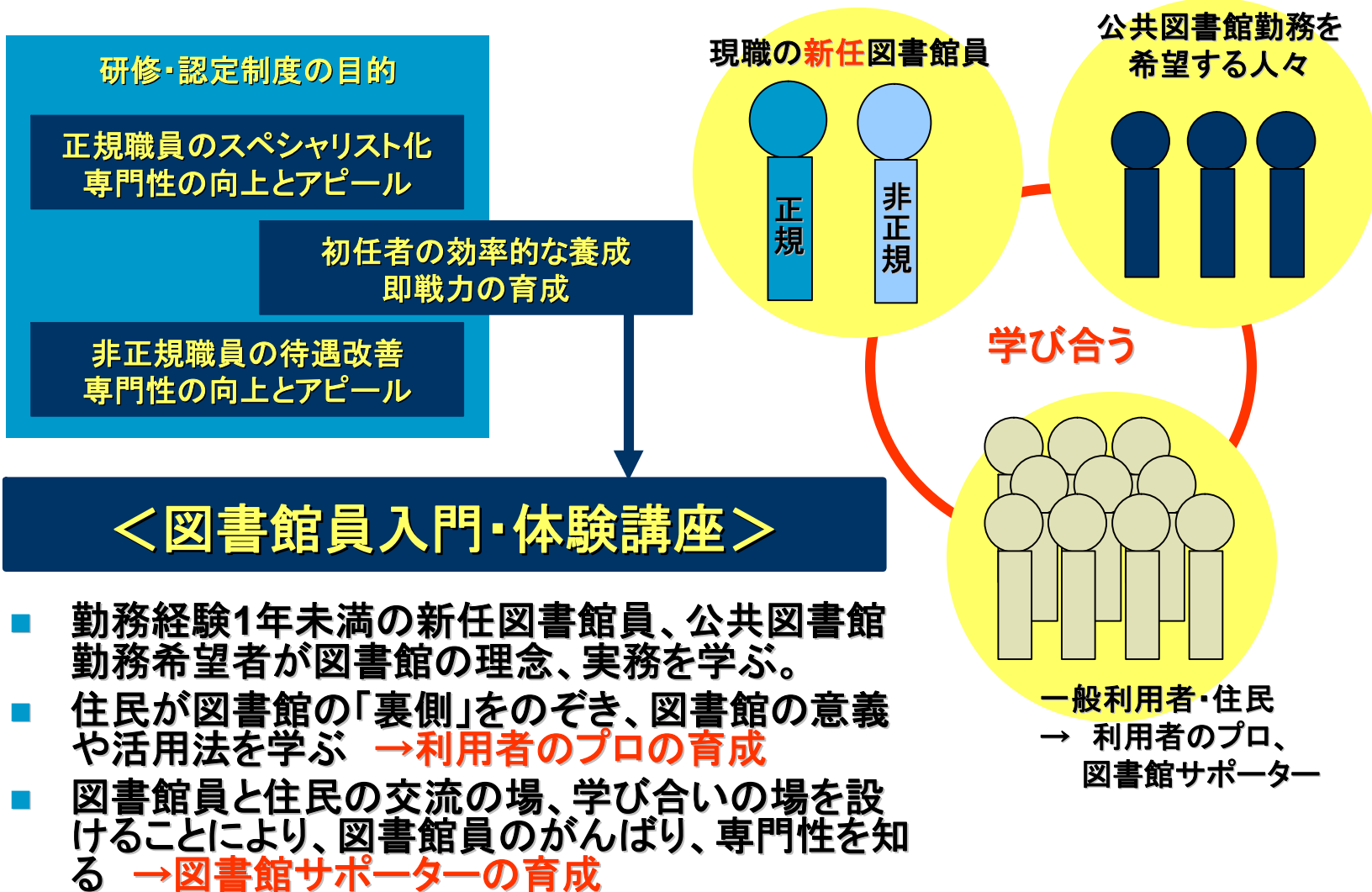
# 研修・認定制度の内容

## 誰を対象とした研修・認定制度なのか？



# 研修・認定制度の内容

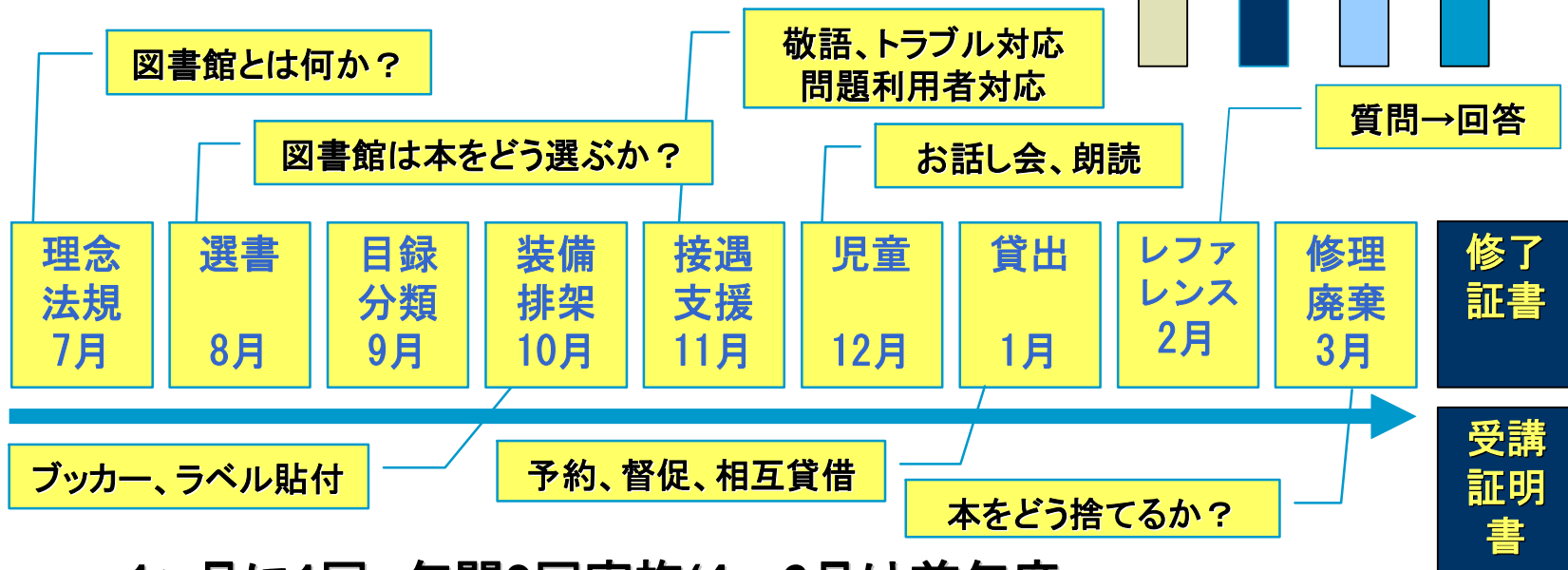
## どのようなプログラムが必要か？①



# 研修・認定制度の内容

初任者、勤務希望者、  
(司書課程学生) 住民

## 図書館員入門・体験講座のカリキュラム

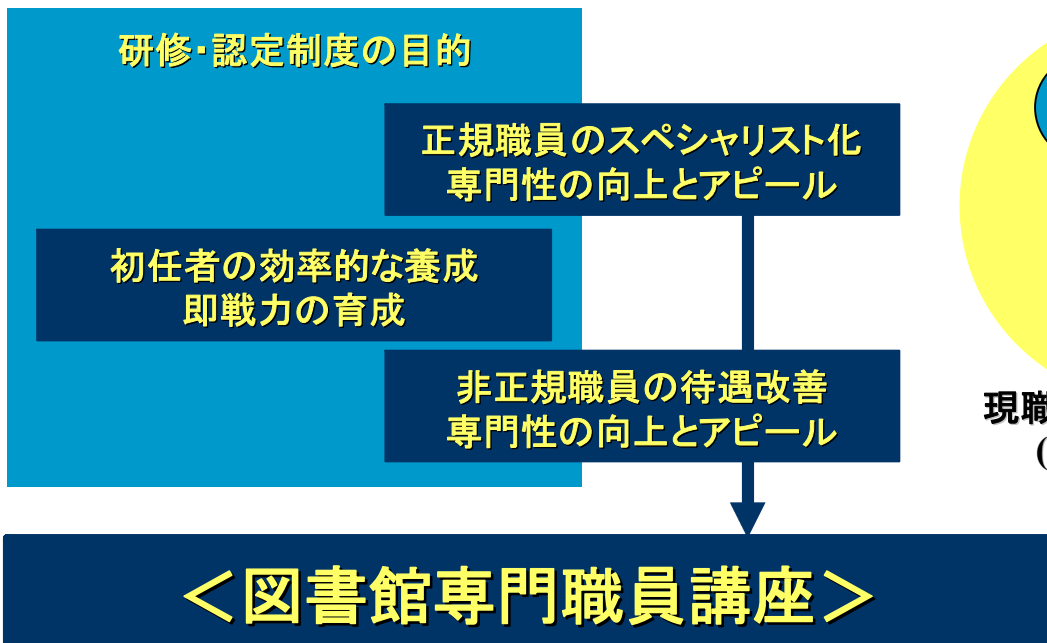


- 1ヶ月に1回、年間9回実施(4~6月は前年度の反省、カリキュラム作成期間に充てる)
- 全回参加者へ修了証書
- 部分参加者へ受講証明書を発行(○回/9回)
- 土曜日18時30分~20時(90分)に開催
- カリキュラムは毎年、一部変更し、新しいテーマを取り入れ、継続して学ぶことができるようにする。
- 講師は現職図書館員を中心とする。

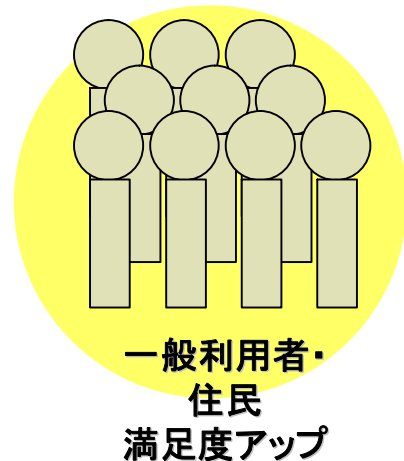
●カリキュラムは一例  
他に、移動図書館、  
広報、館内装飾、  
相互貸借、  
高齢者・障害者サービス、  
著作権法、  
プライバシー保護なども

# 研修・認定制度の内容

## どのようなプログラムが必要か？②



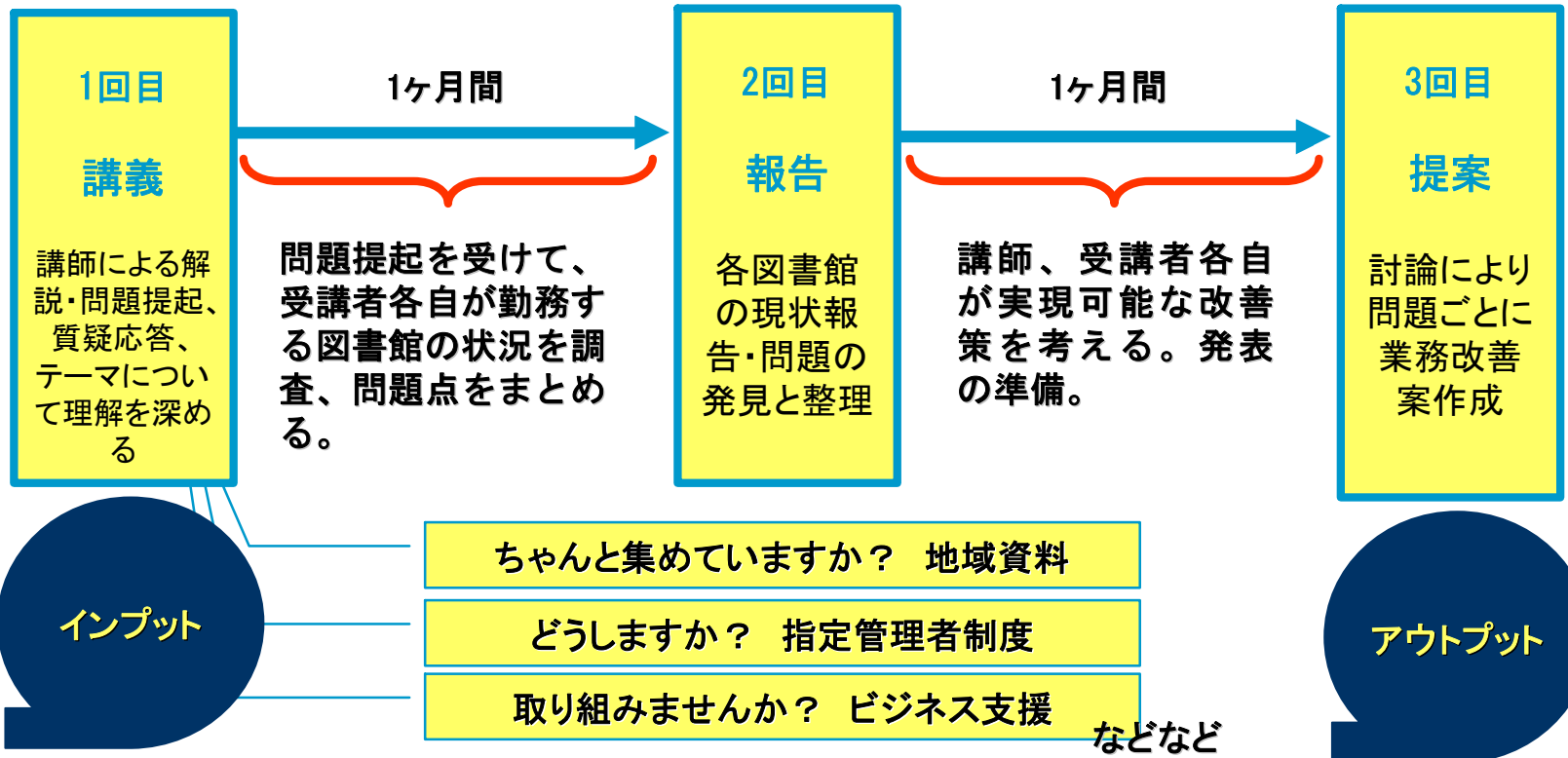
- 勤務経験1年以上の図書館員が先進的な図書館サービス理論を学び、日常業務を再点検、問題点を発見する。(学校、大学図書館をテーマとすることも可能)
- 参加者とともにディスカッションし、改善策をまとめる。
- 業務に戻り、改善策を実践し、その成果を協会誌、講演等で発表する。→**個人のスキル、専門性の認定**
- サービス向上により、利用者満足度を高める →**図書館支持者の増加**



# 研修・認定制度の内容

実務経験1年以上の  
現職者

## 図書館専門職員講座のカリキュラム①



- 毎月1回月曜日(図書館休館日)の13時～15時、1つのテーマにつき研修会を3回実施、3ヶ月間で1テーマ
- 講師は話をするだけでない。参加者も話を聞くだけではない
- インプットだけでなくアウトプットを求め、実践型研修を目指す

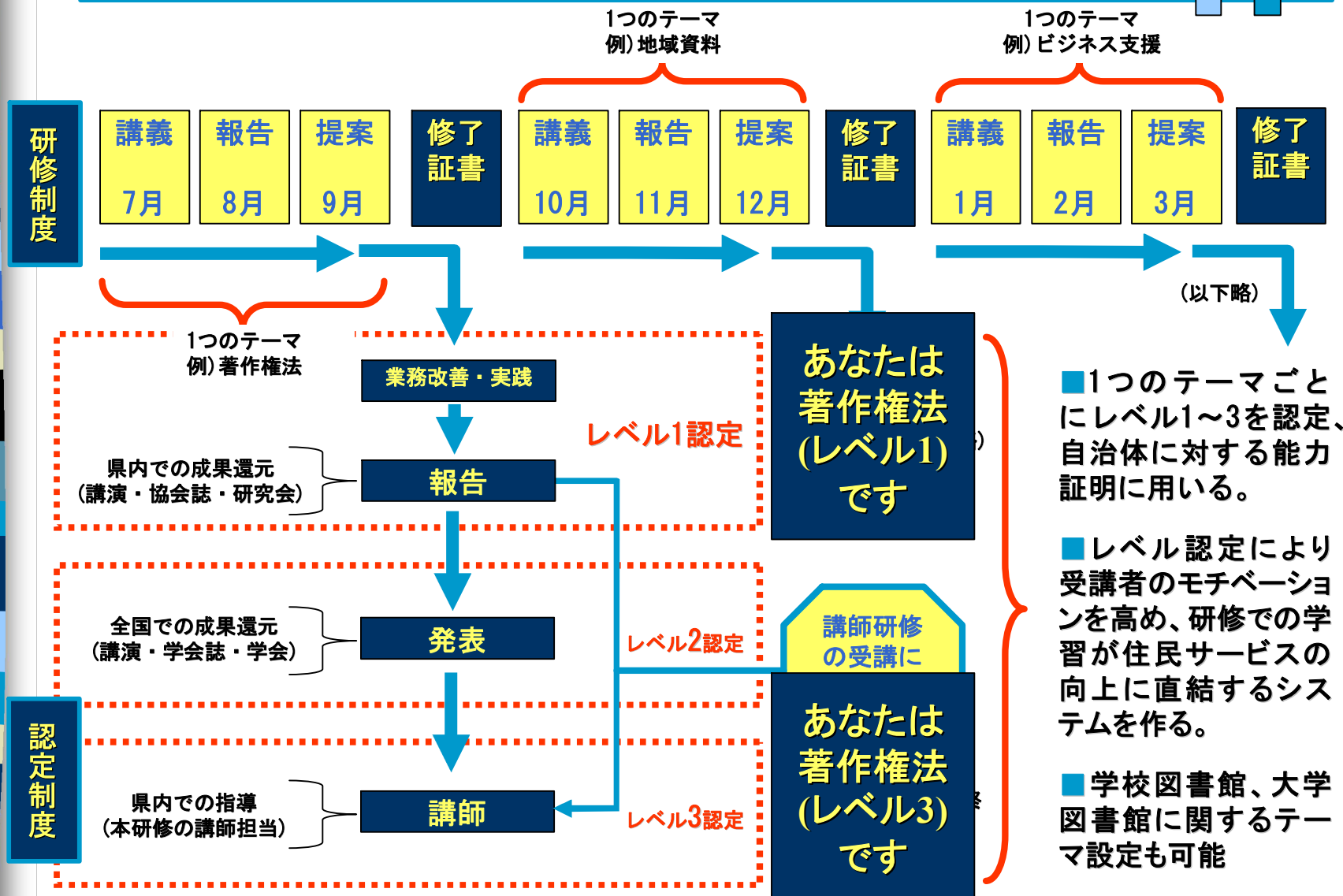


# 研修・認定制度の内容

実務経験1年以上の  
現職者



## 図書館専門職員講座のカリキュラム②







# 今後の検討課題

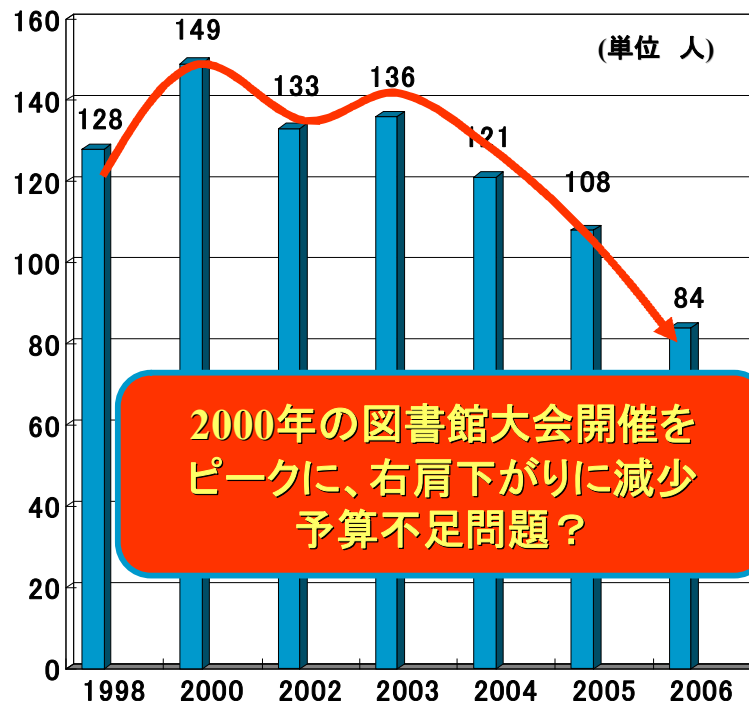
ご意見をお聞かせ下さい

# 今後の検討課題①

## 研修・認定制度の実施機関と研修プログラムについて

- 沖縄県図書館協会では、年々、個人会員が減少。「役に立つ図書館協会」への転換が求められている。
  - アンケートによると、研修会・講演会の充実を求める会員も多い。
  - 能力証明(認定)は信用のある団体でなければ実施できない。県内に認定できる団体は、図書館関係者によって構成される県図書館協会しかない。
- ↓
- 2007年2月末、沖縄県図書館協会の事業として理事会に提案、研修・認定制度スタートの承認を得ている。
  - ただし、具体的な検討はこれから。会員の支持、後押しが必要。

図3 沖縄県図書館協会個人会員数の推移  
(沖縄県図書館協会誌会員名簿より作成)



どのような研修・認定制度が必要か？  
プログラムに対する要望は？

# 今後の検討課題②

## 開催日・時間帯・場所は適切か？

- 市民、司書課程学生、初任者を対象とする図書館員入門・体験講座は、全員が参加可能な時間帯として、**土曜日の18時30分～20時**に開催予定
  - ① 公共図書館の場合、土曜日は17時閉館が多いが、間に合うか？
  - ② どのあたりに会場を設ければ、参加可能か？(那覇市を予定)
- 図書館専門職員研修は、多くの公共図書館が休館日としている**月曜日13時～15時**に実施。
  - ① 県立、宜野湾市民図書館は火曜日が休館日となるが、公的な研修として正規、非正規職員問わず参加できるか？
  - ② 公共図書館勤務を希望する学校図書館員、大学図書館員(非正規職員)は公的な研修として参加できるか？

# 今後の検討課題③

## 受講料は？ 予算はどのように確保するのか？

- 沖縄県図書館協会の財源は乏しく(年間80万円程度)、1年に1回の記念講演、2回の研修会、機関誌の発行以外に充てる予算はない。
- 研修を行うためには、会員数の増加分を研修予算に充てるしかない。そこで、受講料を以下のように設定する予定。

身分・所属	入門・体験講座	専門職員講座	認定料(証書発行)
①個人会員 (年会費2000円)	無料	無料	無料(再発行は有料)
②団体会員(機関ごと に1000円~5000円)	1回200円	1回500円	1回500円
③住民・学生	1回200円	受講できない	1回500円

しかし

- 研修実績がない状況でどれだけの新規会員が集まるか？
- 関係者による寄付、大学からの補助金の拠出を検討中(司書課程受講生の業務体験の支援として)だが、安定した財源が必要。
- 会員が増加しなければ、評判の良い外部講師を招くことができず、研修が充実しない、という悪循環に陥る。
- 県内図書館関係者に、「研修制度・認定制度を育てる」という観点から理解を求めることができるか？



アンケートに  
ご協力ください